


第 5 5 回 機 械 振 興 賞 応 募 申 請 書

業績の題目	事例 1
-------	------

注：題目は 20 文字以内で内容が理解できる表現にして下さい。（記号，略号，商品名は使わない）

支援期間	西暦 ○○○○年 4 月 ～ ○○○○年 3 月
------	--------------------------

支援団体名	○○県	団体の種別※：自治体
代表者名	○○県知事 ○○ ○○	
所在地	〒○○○-○○○○ ○○県○○市中央○○○○	

※公設試験場、自治体の支援団体、自治体、中小企業団体、地域のネットワーク、金融機関、教育機関、その他

支援担当者氏名	勤務先・所属・役職名	所在地
△△△ △郎	○○県・工業振興課・ 同課係長	〒○○○-○○○○ ○○県○○市中央○○○○
□□ □雄	○○県産業振興センター・ 同プロジェクトマネージャー	〒○○○-○○○○ ○○県○○市中央○○○○
		〒

※支援担当者氏名欄の人数が足りない場合は、ページ下の余白に記載してください。
支援団体が複数の場合には、下記ホームページ掲載の 2 頁版「その 1 (別様式)」をご利用ください。
(<http://www.jspmi.or.jp/tri/prize/>)

支援団体 連絡担当者	勤 務 先	○○県
	所属・役職名	工業振興課・係長
	所 在 地	〒○○○-○○○○ ○○県○○市中央○○○○
	ふりがな 氏 名	△△△ △郎
		電 話：○○○-○○○-○○○○
		F A X：○○○-○○○-○○○○
		E-mail：xxxxxxx@xxxx.pref.jp

申請団体名：〇〇県

1. 題目：事例1

2. 要旨（下記の(a)(c)(d)は、3の(a)(c)(d)に対応）

(a)支援先の事業成果 (売上高の増加等)	直近の事業の実績は、売上高〇〇万円・〇台(平成30年度)、最近の実績は、売上高〇〇万円・〇台(平成〇年度(発売)～平成30年度)。
(c)生み出した革新 (支援方法や波及効果)	事業化した中小企業には、機械設計・組立て技術があり、本件装置の中核となる食品加工技術の特許は食品加工技術センター側にあり、プロジェクトマネージャがつないで、企業はその実施権を得た。 また、食品の種類別の加工技術については、他県の企業からの助言を入れ、他にない独自性と実用性の高い加工装置ができた。
(d)支援体制や方法の工夫 (広域連携、独自の枠組等)	〇〇県食品工業技術センター、県庁産業労働部工業振興課および同県産業振興センターのプロジェクトマネージャが協力して地元中小企業につなぎ、加工装置の開発と事業化を行った。さらに「新連携」(中小企業庁)の制度を紹介して活用を勧め、平成〇年度に採択された。こうして、高い認知と事業化の資金的支援を得た。
その他、特筆すべき点	

3. 内訳

(a)支援先企業の成果：(支援を受けた中小企業がどのような事業成果を生んだのかを記述してください。)

中小機械装置メーカーである〇社(〇〇県〇〇市)が、平成〇年度に高圧で食品を加工する装置を開発し、同〇年度から食品加工メーカーや国の食品加工研究所に納入している。
その後、派生機も開発して商品ラインを形成し、同社の事業の大きい柱となっている。
直近の事業の実績は、売上高〇〇万円・〇台(平成30年度)、最近の実績は、売上高〇〇万円・〇台(平成〇年度(発売)～平成30年度)となっている。

(b)支援の内容：(8行程度 どのような支援を行ったかを、記述してください。)

〇〇県食品工業技術センター(公設試)が開発した特許を、同センターを所管する県庁産業労働部工業振興課と同県産業振興センターのプロジェクトマネージャが協力して地元中小企業につなぎ、同企業が同技術を活用した加工装置の開発と事業化に成功した。
同産業振興センターのプロジェクトマネージャは、当分野で全国的にも独自性と強みをもつ同公設試が発明した高圧食品加工技術を、高圧技術を活用した技術開発論に実績を持つ地元中小企業に紹介した。同企業が事業か開発をめざすに際して、装置にまとめるために必要な技術について、地元及び〇〇県と〇〇県の企業(各〇〇を担当)と協力することを助言するとともに、これら企業を紹介・引き合わせて連携体制を築いた。さらに「新連携」(中小企業庁)の制度を紹介して活用を勧め、平成〇年度に採択された。こうして、高い認知と事業化の資金的支援を得た。

(c)どのような革新を生んだか：(8行程度 支援活動の方法論として、他の模範となると思われる点を記述してください。)

事業化した中小企業には、機械設計・組立て技術があった。本件装置の中核となる食品加工技術の特許は食品加工技術センター(公設試)側にあり、プロジェクトマネージャがつないで、企業はその実施権を得た。こうしてコアとなるシーズ技術を導入した。
食品の種類別の加工技術については、他県の企業からの助言を入れた。こうして、シーズ技術と周辺技術を組み合わせ、事業化した企業自身が持つ設計・統合・生産技術を合わせて、独自性と実用性の高い加工装置ができた。
プロジェクトマネージャは、これらの組合せと体制の構築を行い、他にない装置を抄出・事業化できた。

(d)支援体制、枠組み、方法等の工夫：(1頁以内 行った支援について、実施体制や構築した枠組などの特徴や独自性を記述してください。必要に応じて図などをご活用下さい。)

〇〇県食品工業技術センター(公設試)は、食品を高圧加工することで、短時間で処理する技術につき、平成〇年度に特許を得た。県庁は、県内の公設試各所が持つ特許の活用を図るため、平成〇年度に専用の予算を計上して、実用化可能性のある特許を選んで(弁理士ではなく)技術ライターに委嘱し、分かりやすい解説書を作り、平成〇年度から〇〇の方法で公表していた。

一方、同県産業振興センターは、優れた支援能力をもつプロジェクトマネージャを雇用して県内中小企業の支援を行っている。本件申請に係るプロジェクトマネージャ〇〇は、同地方(経済産業局管内)を代表する企業である〇〇社(自動車メーカ(〇〇県〇〇市))に勤めて事業部長を務めたあと、〇年度に中小企業団体の同地方支部の専務理事・事務局長を歴任した。こうした経歴から、同コーディネータは、同地方の中小企業、公設試を含む各種の組織や中小企業庁の支援策等に通じていた。

同産業振興センターは〇〇のこうした資質を活用すべく、支援人材の1人として起用していた。

その2、その3それぞれ1頁以内でお願いします。(目安：フォントサイズ10.5以上)

優れた取組みについては、受賞の当否に関わらず、事例として紹介させていただく場合があります。その場合は、事前にお尋ねして承諾を得ることとします。それ以外は、審査にのみ用います。

Web ページ (<http://www.jspmi.or.jp/tri/prize/>) 掲載の電子版書式をご利用ください。

第 5 5 回 機 械 振 興 賞 応 募 申 請 書

業績の題目	事例 2
-------	------

注：題目は 20 文字以内で内容が理解できる表現にして下さい。（記号，略号，商品名は使わない）

支援期間	西暦 ○○○○年 4 月 ～ ○○○△年 3 月
------	--------------------------

支援団体名	○○大学	団体の種別※：教育機関
代表者名	学長 ○○ ○○	
所在地	〒○○○-○○○○ ○○県○○市中央○○○○	



※公設試験場、自治体の支援団体、自治体、中小企業団体、地域のネットワーク、金融機関、教育機関、その他

支援担当者氏名	勤務先・所属・役職名	所在地
△△△ △郎	○○大学 産学連携推進本部 コーディネーター	〒○○○-○○○○ ○○県○○市中央○○○○
		〒
		〒

※支援担当者氏名欄の人数が足りない場合は、ページ下の余白に記載してください。
支援団体が複数の場合には、下記ホームページ掲載の 2 頁版「その 1 (別様式)」をご利用ください。
(<http://www.jspmi.or.jp/tri/prize/>)

支援団体 連絡担当者	勤務先	○○大学	
	所属・役職名	産学連携推進本部 コーディネーター	
	所在地	〒○○○-○○○○ ○○県○○市中央○○○○	
	ふりがな 氏名	△△△ △郎	電 話：○○○-○○○-○○○○ F A X：○○○-○○○-○○○○ E-mail：xxxxxxx@xxxx.ac.jp

申請団体名：〇〇大学

1. 題目：事例1

2. 要旨（下記の(a)(c)(d)は、3の(a)(c)(d)に対応）

(a)支援先の事業成果 (売上高の増加等)	平成〇年度から納入を開始し、計〇車種に利用されている。 直近の事業の実績は、売上高〇〇万円・〇台(平成30年度)、最近の実績は、売上高〇〇万円・〇台(平成〇年度(発売)～平成30年度)。
(c)生み出した革新 (支援方法や波及効果)	中小メーカーのもつ部材の客観的な特性データを作成することで、自動車部品大手が需要先となった。その結果、中小企業が、設備と要員への投資、および、事業化ができた。試験データによる実証、加工方法の改良、調達側への紹介、生産・供給条件の設定、品質保証といった一連の事業の構築を行い、高い付加価値を実現する事業として結実させた。
(d)支援体制や方法の工夫 (広域連携、独自の枠組等)	〇〇大学は産学官連携推進の一環として、平成〇〇年度に同大学産学連携推進本部に地域連携室を設けた。 担当コーディネータは、地元大手自動車メーカーの副工場長を務めた経験があり、県の産学官連携会議に参加するなどして地域に広いネットワークを持つなど事業化支援に高い資質を持つ。
その他、特筆すべき点	

3. 内訳

(a)支援先企業の成果:(支援を受けた中小企業がどのような事業成果を生んだのかを記述してください。)

中小化学部材メーカーである〇社(〇〇県〇〇市)が、独自の物性をもち、CO2排出抑制にも寄与するリサイクル素材で自動車部品に進出し、〇〇社(ティア2)を経て〇〇社(ティア1)へと、乗用車内装材としての調達につながった。平成〇年度から納入を開始し、計〇車種に利用されている。
直近の事業の実績は、売上高〇〇万円・〇台(平成30年度)、最近の実績は、売上高〇〇万円・〇台(平成〇年度(発売)～平成30年度)となっている。

(b)支援の内容:(8行程度 どのような支援を行ったかを、記述してください。)

中小化学部材メーカーが、同社の独自素材を活用して高い付加価値で事業化することをめざし、中小企業基盤整備機構のアドバイザー派遣事業を利用して、〇〇大学産学連携推進本部のコーディネータを招いた。コーディネータは同社の素材の特性に注目し、同メーカーと協力して物性分析から成形、生産技術にいたる事業モデルを構築した。地元にある自動車部品大手(ティア1)出身であるコーディネータは、自身のネットワークと活かして地元大学(川上)と自動車部品大手(川下)とつなげて事業の体制を築いた。
開発段階では、コーディネータが中心となって「戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン)」(中小企業庁)に応募を支援して、平成〇年度に採択された。
サポイン事業の実施に際しては、同コーディネータが属する大学産学連携推進本部が事業管理機関となり、同コーディネータはアドバイザーとして同支援事業の中核的役割を担った。コーディネータは、サンプル提供から受注、品質保証の一連について助言を続け、継続的な調達につながった。

(c)どのような革新を生んだか:(8行程度 支援活動の方法論として、他の模範となると思われる点を記述してください。)

中小メーカーのもつ部材の特性を、大学が解析し物性試験装置を提供して実証した。
その結果、同部材の持つ特性を客観的に説明が可能になった。
こうしたデータを自動車部品大手に提供することにより、規模も安定度もある需要先となった。その結果、中小企業は、設備と要員に投資して事業を立ち上げることができた。コーディネータは、材料の特性をみて、試験データによる実証、加工方法の改良開発、調達側への紹介と交渉、サンプル提供から生産・供給条件の設定、品質保証といった一連の事業の構築を行った。この結果「可能性を持つ素材」レベルであったものを川下につなぎ、高い付加価値を実現する事業として結実させた。

(d)支援体制、枠組み、方法等の工夫：(1頁以内 行った支援について、実施体制や構築した枠組などの特徴や独自性を記述してください。必要に応じて図などをご活用下さい。)

〇〇大学は産学官連携推進の一環として、地域中小企業の支援に注力している。こうした目的で、平成〇〇年度に同大学産学連携推進本部に地域連携室を設けた。同連携室は技術、経営、ネットワーク化に優れたコーディネータ〇名を雇用している。本件応募に掛かるコーディネータは、地元にある大手自動車メーカの汎用機械部品工場に勤め、生産技術の責任者を経て平成〇年度まで副工場長を務めた。その間、県の産学官連携会議に会社を代表して参加する等地域に広いネットワークを持っている。同コーディネータは技術士に加えて中小企業診断士の資格も持ち、事業化支援に高い資質を持つ。本件以外にも、同連携室は、平成〇年度から現在までに、地元中小企業と連携して「新連携」〇件、「サポイン」〇件の獲得に寄与し、うちサポイン〇件について、事業管理機関を務めている。

その2、その3それぞれ1頁以内でお願いします。(目安：フォントサイズ10.5以上)
優れた取組みについては、受賞の当否に関わらず、事例として紹介させていただく場合があります。その場合は、事前にお尋ねして承諾を得ることとします。それ以外は、審査にのみ用います。
Web ページ (<http://www.jspmi.or.jp/tri/prize/>) 掲載の電子版書式をご利用ください。